

令和7年度 施策評価シート

施策の大綱	1. 快適さを支える生活基盤の向上	評価担当者
基本施策	(3) 上下水道の充実	上下水道部長 宮崎 伸二
目指す姿	市民が、生活環境の改善を図り、良好な水環境の中で、おいしい水を利用しています。	
関連する分野別計画	亀山市新水道ビジョン	

■SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	    
SDGs推進の考察	水道施設の耐震化整備や停電対策整備を進め、施設の強靱化と安全でおいしい水道水の安定供給に努めるとともに、公共下水道施設の普及促進・適正管理と農業集落排水施設の機能強化を進め、公共用水域の水質保全に努めた。また、集中豪雨等における浸水対策の内水浸水想定区域図の作成を行い、防災力の向上に努めた。

■関連する主な事業

(単位:千円)

施策 の方向	事業名	上段: 予算額	実績・成果等
		下段: 決算額	
①	水道施設耐震化整備事業	232,009 181,395	第1水源地からJR軌道下までの基幹管路の耐震化が完了し、令和7年度末の耐震化率は21.2%となり、計画をわずかに上回る進捗となった。今後も上下水道耐震化計画に基づき、急所施設や重要施設への管路耐震化を計画的に進めていく。
①	水道施設専用通信デジタル化事業	0 0	本事業は4か年計画で通信機器の更新を進めるものであるが、通信事業者の専用通信回路の切替工事が遅延したことにより初年度の更新工事を翌年度へ繰り越す結果となった。令和7年度末時点では工事は着実に進捗し、デジタル化に向け事業は推進しており、計画最終年度である令和10年度までに専用通信のデジタル化を完了させる。
②	公共下水道施設整備事業	727,400 682,495	亀山市公共下水道事業計画(変更)に基づき、下水道未普及地域の管渠整備を実施し、公共下水道整備を推進した。
②	下水道ストックマネジメント対策事業	87,000 48,352	下水道管渠の施設が最も古いみどり町地内において、亀山市公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、効率的・効果的に老朽化した下水道管渠の改築工事を実施した。
②	農業集落排水施設機能強化事業	40,870 40,370	老朽化等により機能が低下した施設の適切な維持管理を図るため、機能強化対策事業計画に基づき、上加太処理場で機器の更新工事を実施した。あわせて、機能強化対策事業計画(第2期)を策定し、下加太地区、市瀬地区、南部地区において、維持管理の効率化・適正化に向けた検討を行った。
②	浸水対策事業	24,000 23,654	計画通りに内水浸水想定区域図を作成したことで、住民等の防災力の向上に寄与できた。

太字: 主要事業

■成果指標

指標			現状値		実績値				目標値
					R4	R5	R6	R7	
1	上水道の有収率(北中勢水道を除く)	%	90.0	R2	89.7	89.4	89.7	88.2	92.3
2	汚水処理人口普及率	%	88.6	R2	89.11	89.66	90.11	90.48	89.1
3	水道事業会計の経常収支比率	%	120.67	R2	114.74	115.09	117.43	116.78	114.00
4	下水道事業会計の経常収支比率	%	104.21	R2	104.93	101.17	100.69	101.02	100.00
5									
6									

■市民アンケート調査

項目			現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察 (令和6年度施策評価内容を参考記載)
1	安全でおいしい水が供給されている	重要度	1.62	1.61	1.66	安全でおいしい水の供給は重要度・満足度ともに全項目中2位となっているが、昨年度から重要度の上昇に対し、満足度は下降しR2からも低くなった。一方、生活排水の適正処理は、重要度・満足度ともにR2から着実に上昇している。いずれも高い評価を受けており、今後も継続できるよう取り組む必要がある。
		満足度	1.08	1.13	1.00	
2	生活排水が適正に処理されている	重要度	1.52	1.54	1.58	
		満足度	0.85	0.82	0.91	
3		重要度				
		満足度				
4		重要度				
		満足度				

■施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 安全でおいしい水の安定供給	水道施設の耐震化や浸水対策、計画的な更新を進めるとともに、AI等を活用した漏水調査や水安全計画の策定により水質管理体制を強化し、適切な維持管理を行った。
② 生活排水対策の推進	下水道施設の維持管理業務委託について、従来の複数業者との個別契約から共同企業体方式へ移行し、体制の強化を図った。また、令和9年度からのW-PPPの導入に向けて検討を進めた。農業集落排水施設(田村地区)については、令和9年4月からの公共下水道への編入に向け、関係条例の改正を行った。
③ 上下水道事業の健全経営(上水道)	工事費等の高騰や有収率低下があるものの、漏水調査の効率化等による経費削減や水道料金未納者への納付催促等を通じた収率率向上に努め、健全経営を維持している。
③ 上下水道事業の健全経営(下水道)	経費回収率向上のため、下水道使用料改定を行った。
④	
⑤	
⑥	

総合評価

安全でおいしい水の安定供給については、老朽化した水道管等の施設更新や維持管理を行った。施設更新として、第1水源系の基幹管路耐震化工事や亀山配水池の耐震診断と水道施設において光回線に対応したデジタル通信への更新に着手し、通信の高速化・安定化等で水道施設の強靱化を図った。また、AI等を活用した漏水調査や水安全計画の策定により水質管理体制を強化し、維持管理を行った。また、令和7年11月に発生した濁り水事案を踏まえ、令和7年度から令和8年度にかけてカメラ調査を実施しており、その調査結果を踏まえ、必要な箇所では洗管作業を検討すると共に、南部地域の配水池である和賀山配水池では不断水清掃を実施し、水質の維持・改善に努めていく。生活排水対策の推進については、公共下水道未普及地域において、公共下水道事業計画に基づき、田村町、椿世町等で整備工事を行い、公共下水道処理人口普及率は前年度より0.8ポイント増の64.8%となった。既に供用開始している地域では、公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、みどり町において老朽化した管渠の改築・更新工事を実施し、持続可能な下水道機能を確保することができた。また、令和9年度からのW-PPPの導入に向けて検討を進めた。農業集落排水地域においては、老朽化等により機能低下した施設の適切な維持管理を図るため、機能強化対策事業計画(第1期)に基づき上加太地区処理場の更新工事を実施するとともに、下加太地区・市瀬地区・南部地区を対象とした機能強化対策事業計画(第2期)を策定した。このほか、ゲリラ豪雨や台風等による浸水対策として内水浸水想定区域図の作成を行った。上下水道事業の健全経営については、人件費や物価高騰等による経費の増があったものの、水道料金及び下水道使用料の収納率向上に努めたことで、経常収支比率は各会計とも100%を上回り、健全な経営状況となっている。また、持続可能な経営の維持できるよう、経費回収率向上のため、下水道使用料改定を行った。

B

まずまず進んだ

今後の展開方針

水道事業については、施設の老朽化対策等適切な維持管理を継続するとともに、令和7年4月に策定した上下水道耐震化計画に基づく施設の耐震化と令和8年3月に策定した水安全計画に基づくPFAS等の水質危害から水道水の安全確保や強化する施設の浸水対策など、新水道ビジョンに基づいた取り組みを進める。なお、現新水道ビジョンが令和9年度に計画終期となるため、将来の事業環境の変化を考慮した、新たな新水道ビジョンの策定準備を行う。また、新たな産業団地に対応できるよう安定した工業用の水の確保に努める。下水道事業については、効率的な汚水処理を図るため、令和8年3月に策定した生活排水処理アクションプログラムに基づく公共下水道の未普及対策や農業集落排水施設の機能強化対策を進めるとともに、官民連携による施設の管理・更新一体の維持管理としてW-PPPの導入を目指す。上下水道事業の健全経営については、有収率の向上や財源確保に努め、適宜、経営戦略を見直しを行う。浸水対策については、作成した内水浸水想定区域図を公表し、住民等の防災力の向上を図る。